

分野	専門分野	授業科目	基礎看護学実習
単位（時間）	3 単位（135 時間）	実習時期	1 年次前期～後期
実習名 （時間）	1 療養見学実習（10 時間） 2 生活援助基礎実習（35 時間） 3 看護過程基礎実習（90 時間）		
<科目設定理由> 対象の生活の場である病室の環境整備ができ、日常生活援助及び看護過程の展開を学ぶ。 <科目目標> 病室の環境整備ができる。 基礎的知識及び技術を踏まえ、対象の状態に応じた日常生活援助を体験する。 受け持ち患者に対し、看護過程を使って看護の展開を体験する。 <実習内容> 1 療養見学実習 ・病院における患者の療養環境を見学し、病室内の患者と話す機会を持ち、患者とのコミュニケーションを図る。 2 生活援助基礎実習 ・入院患者の日常生活援助技術を看護師とともに実施する。 ・プロセスレコードを取り、患者とのかかわりを振り返る。 3 看護過程基礎実習 ・受け持ち患者の看護過程の展開を行う。 ・日常生活援助技術を受け持ち患者に実施する。			
<実習の進め方> ・実習前に学内で実習の説明を受ける。 ・要綱に基づき事前学習を行い、指示された学習についてはレポートを提出する。 ・実習の方法については要綱参照			
<受講要件> 療養見学実習：なし 生活援助基礎実習： ・医療コミュニケーション（プロセスレコードに関すること）を受講していること。 ・ベッドメイキング、身体の清潔、フィジカルアセスメントの技術チェックに合格していること。 看護過程基礎実習：生活援助基礎実習を履修していること。			
<テキスト・参考文献> 実習要綱参照			
<評価方法> ・看護過程基礎実習での評価 ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価及び出席点の合計			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	3 年次前期
実習名 （時間）	1 地域支援実習（30 時間）保健所（現地 3 日＋学内 2 日） 2 地域保健実習（30 時間）：市町村 3 在宅看護実習（30 時間）：訪問看護ステーション		
＜科目設定理由＞ 保健・医療・福祉との連携・協働を通じた切れ目のない看護を学ぶ。 ＜科目目標＞ 保健所、市町村、訪問看護ステーションにおける看護活動の実際を知る。 地域・在宅における看護の役割を理解する。 医療との連携がイメージできる。 ＜実習内容＞ 1 地域支援実習 ・保健所の機能や役割、関係機関との連携について知る。 ・保健所が担う保健活動と看護職である保健師の実際の活動を見学する。 2 地域保健実習 ・地域住民に対する保健活動を見学する。 ・母子保健や高齢者支援、関係機関との連携など、市町村保健師の活動の実際を見学する。 3 在宅看護実習 ・訪問看護ステーションの機能と在宅看護における訪問看護の活動の実際を見学する。 ・社会資源の活用及び関係機関との連携の実際を見る。			
＜受講要件＞ ・地域・在宅看護総論の講義を受講しておくこと。			
＜テキスト・参考文献＞ 実習要綱参照			
＜評価方法＞ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点の合計			

分野	専門分野	授業科目	成人看護学実習
単位（時間）	6 単位（270 時間）	実習時期	2 年次前期～3 年次前期
実習名 （時間）	1 成人看護総論実習（60 時間）：内科系病棟 2 周術期看護実習（60 時間）：消化器病棟・手術室 3 急性期看護実習（60 時間）：救命救急センター 4 人生の最終段階看護実習（30 時間）：緩和ケア病棟 5 慢性期看護実習（45 時間） 6 自己管理看護実習（15 時間）		
< 科目設定理由 > 成人期の特徴を捉えた看護活動を体験し、ライフサイクルに共通した健康障害の経過に応じた看護過程の展開を学ぶ。 < 科目目標 > ライフサイクルに共通した急性期、慢性期、周術期、人生の最終段階など健康障害の経過に応じた看護過程の展開ができる。 対象及び家族の意思決定を支え、セルフケア能力を獲得していく支援を理解する。 < 実習内容 > 1 成人看護総論実習 ・受け持ち患者の健康状態を把握し、患者と家族が自ら生活をコントロールするために必要な看護過程を展開する。 ・患者に行われる検査・処置・治療を通して必要な看護援助を考える。 2 周術期看護実習 ・患者 1 名を、手術前中後を通して受け持ち、看護過程の展開をする。 ・術直後の看護は指導者の指示、監督のもとに実施する。 3 急性期看護実習 ・救急救命センター入室中の患者 1 名を受け持ち、看護過程を展開する。 ・救急外来で 1 日見学し、看護の実際を学ぶ。 4 人生の最終段階看護実習 ・緩和ケア病棟にて、人生の最終段階にある患者や家族に対する援助の実際と看護師の役割、家族ケアの必要性和チームアプローチについて学ぶ。 ・自己の死生観について考える機会とする。 5 慢性期看護実習 ・3 か所の外来を 2 日間ずつ実習し、外来における継続看護を学ぶ。 ・各外来の検査・処置・治療に伴う援助技術を見学する。 6 自己管理看護実習 ・慢性疾患で自己管理が必要な患者への援助について学ぶ。			

<受講要件>

- ・基礎看護学実習を履修していること。
- ・成人看護学総論を受講していること。

<テキスト・参考文献>

実習要綱参照

<評価方法>

実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点の合計

分野	専門分野	授業科目	老年看護学実習
単位（時間）	4 単位（180 時間）	実習時期	1 年次前期～3 年次前期
実習名 （時間）	1 老年看護基礎実習（6 時間）：老人福祉センター等 2 高齢者生活支援実習（54 時間）：老人保健施設等 3 老年看護実習（120 時間）：整形外科病棟、 脳神経センター及び SCU		
< 科目設定理由 > 老年期の特徴を捉えた看護過程の展開を学ぶ。 < 科目目標 > 多様な場で生活する高齢者の健康問題が理解できる。 保健・医療・福祉の連携・協働を通して看護の役割を理解する。 対象のニーズに応じた看護過程を使った看護の展開ができる。 < 実習内容 > 1 老年看護基礎実習（1 年次） ・地域の高齢者が利用する高齢者福祉センター等に 1 日出向き、高齢者と接することで、特徴や日常生活を知る。 ・高齢者を支える社会資源の 1 つとして、施設の役割について学ぶ。 2 高齢者生活支援実習（2 年次） ・介護保健施設等の入所者を受け持ち、生活に焦点を当て、指導者の指導のもと援助を行う。プロセスレコードでかかわりを振り返る。 ・通所におけるレクリエーションを行う。 ・高齢者支援を通して、医療、保健、福祉の連携の実際を見学する。 3 老年看護実習（2 年～3 年次） ・老年期にある患者を受け持ち、状態に合わせた看護過程を展開する。 ・リハビリテーション室での訓練、または言語訓練及び嚥下訓練を見学する。 < 受講要件 > ・老年看護基礎実習：なし ・高齢者生活支援実習：老年看護学総論を受講していること。 ・老年看護実習：老年看護学総論を受講していること。 < テキスト・参考文献 > 実習要綱参照 < 評価方法 > 2～3 年次の老年看護学実習（2 か所）における評価点の平均 実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点の合計			

分野	専門分野	授業科目	小児看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	開講時期	1 年次後期 2 年次後期～3 年次前期
実習名(時間)	1 小児看護基礎実習(30 時間) 2 小児看護実習(60 時間)		
< 科目設定理由 > 成長発達段階にある小児期の特徴を捉えた看護過程の展開を学ぶ。 < 科目目標 > 成長発達段階にある小児の生活や家族の位置づけ、取り巻く環境について知る。 対象のニーズに応じた看護過程を使った看護の展開ができる。 < 実習内容 > 1 小児看護基礎実習（1 年次） ・ 保育所等で、健康な子どもに触れ、保育の実際を見学することで小児の成長・発達について学ぶ。 ・ 子どもが遭遇しやすい事故や安全対策について、その実際を見る。 2 小児看護実習（2 年次） ・ 入院患児 1 名を受け持ち、看護過程を展開する。 ・ 小児の診察、治療、検査時の看護を経験する。 ・ 病棟実習中に小児科外来で実習する。			
< 受講要件 > 小児看護基礎実習：なし 小児看護実習：基礎看護学実習を履修していること。 小児看護学総論の講義を受講していること。			
< テキスト > 実習要綱参照			
< 参考文献 > 実習要綱参照			
< 評価方法 > 小児看護実習における実習評価 実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点の合計			

分野	専門分野	授業科目	母性看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	開講時期	2 年次後期～3 年次前期
実習名(時間)	母性看護実習（90 時間）		
< 科目設定理由 > 妊娠、分娩、産褥、新生児における看護過程の展開を学ぶ。 < 科目目標 > 妊娠、分娩、産褥、新生児の看護を理解する。 新しい生命の誕生を通して、自己の母性（父性）について考える。 < 実習内容 > 母性看護実習（産科病棟、産科外来、NICU） ・ 正常妊娠・産褥にある人 1 名受け持ち、分娩・産褥・育児の一連の流れに関わる。 ・ 助産師、看護師の指導のもと、妊産褥婦、新生児へ援助を行う。 ・ 男子学生は、指導者または女子学生とともに行動する。			
< 受講要件 > ・ 基礎看護学実習を履修していること。 ・ 周産期病態論を受講していること。 ・ 新生児への援助技術のチェックを受け合格していること。			
< テキスト > 実習要綱参照			
< 参考文献 > 実習要綱参照			
< 評価方法 > 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と教員の評価及び出席点の合計			

分野	専門分野	授業科目	精神看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	開講時期	3 年次前期
実習名（時間）	精神看護実習（90 時間）		
< 科目設定理由 > 精神障害をもつ対象の特徴を理解し、看護過程の展開を学ぶ。 < 科目目標 > 対象のニーズに応じた看護過程を使った看護の展開ができる。 < 実習内容 > 精神看護実習（精神科病棟） ・患者 1 名を受け持ち、看護過程を展開する。 ・プロセスレコードにより、受け持ち患者とのかかわりを振り返るとともに、自己の振り返りを行い、次回の援助につなげる。 ・治療の場である病院環境・生活者である患者を取り巻く社会生活環境を知る。 ・患者－看護師の治療的関係を学ぶ。			
< 受講要件 > ・精神看護学総論、精神の病態論、精神疾患の看護の講義を受講していること。			
< テキスト > 実習要綱参照			
< 参考文献 > 実習要綱参照			
< 評価方法 > 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と教員の評価及び出席点の合計			

分野	専門分野	授業科目	看護の統合と実践実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	開講時期	3 年次後期
実習名(時間)	看護の統合と実践実習（90 時間）		
<科目設定理由> 看護学実習の最終段階として、これまでの学びを活かし、看護の実践能力を高める。 <科目目標> 複数患者の様々な状況に対応できる判断力を身につける。 夜間の看護業務及び患者の状態について理解する。 看護マネジメントの実際を見て、リーダー業務やチームで協働して看護を提供する重要性を理解し、組織の一員となるための自覚を持つ。 <実習内容> 看護の統合と実践実習 1) 看護管理 2) シャドウイング 3) 複数受持ち 4) 夜間 5) リーダー業務			
<受講要件> ・領域別実習を 2/3 以上履修しておくこと。 ・「看護管理実習」「夜間実習」「複数受け持ち実習+シャドウイング実習」はそれぞれに学則規定通りの（2/3 以上）出席を必要とする（評価要件）。			
<テキスト> 実習要綱参照			
<参考文献> 実習要綱参照			
<評価方法> 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と教員の評価及び出席点の合計			